

職域での新入社員に対する 個人年金の提案

— 若年層からのリタイアメントプランニングの準備を —

新入社員として会社に勤務し始めた時期は、自分の人生をしっかりと考える時期です。自分のライフプランをしっかりと考えることをアドバイスし、死亡リスク・生存リスクの両面を考えた保険の必要性を認識していただくことから始まります。



顧客プロフィール

佐々木健二 ◎23歳

Money Date

初任給 18万円
 学生時代に家庭教師のアルバイトでの預金 50万円
 ワンルームアパートで1人暮らし (家賃は1.5万円)
 メーカーの研究所勤務
 今年、私立理科大学を卒業して就職。
 趣味は大学時代から続けているサッカー。まだ初任給を受け取ったばかり。
 父 佐々木浩二 ◎56歳
 地方公務員
 地元の市役所に勤務しており、子煩悩な父。趣味のゴルフはシングル。健二のスポーツ好きは父譲り。自宅は旧家だが、田畑はあまりない。年収560万円。
 母 佐々木洋子 ◎54歳
 パート勤務
 父の扶養控除の範囲内で勤務し、近くの本屋で本の整理などを行っている。年収99万円。
 兄 佐々木浩一 ◎25歳
 銀行勤務
 地元で両親と同居している。最近、生命保険の販売資格を取得した。

今月のFP

木村恵子 ◎31歳

大手の生命保険会社に勤務しており、セールスレディーとして活躍している。FP資格も保有しており、後輩の指導を中心として活動している。



給与の使い道

「佐々木様、そろそろ会社生活にも慣れてきましたか？初めての給料も受け取られたと思いますが、もう使いみちは決まりましたか？」

お昼休みに職場に訪ねた木村は新入社員の佐々木さんに声をかけた。今日の給料日までに、アンケートやニード喚起のチラシなどを差し上げながら信頼を築き、気さくにお話させていただけるようにはなっていた。

「給与は今日、振込みで頂くことになっています。まだ給与明細書を見ただけなので実感はないけどね。仕事が終わったら引き出しに行くよ」と嬉しそうに話してくれた。

「そうですね。昔は現金で受け取っていたようですから実感もありましたが、今は実感ないですね。でも今回の給与から生活費を除いた金額を3つに区分して考え、緊急時に活用するような資金、将来活用する目的が決まっている資金、そして将来に向かって増やす資金と分けて考えてみるとよろしいかと思います。

また、給与の5%程度は、どんな商品がいいかは別としてリスク対応としての生命保険に加入することもお考えになってはいかがでしょう？」

「へえ、自分の収入をそんな風に考えてみるといいんだね。今は独身寮の生活であまり生活費もかからないから、その分貯金して車を買いたいんだ」

「そうですね。お車といった将来活用する目的が決まっている貯金もいいと思います。しかし、その先将来のための貯蓄も必要になります。これからのライフプランを考えていくことも必要になります」

解説 資産の三分法 金融資産を目的に応じて3つに分けて考えます。

- ◆流動性資金
いつでも換金可能な資金
- ◆安定性資金
将来活用する目的が決まっている資金
- ◆収益性資金
余裕資金や遺す資金

保障のおすすめ

「生命保険についてはいかがお考えですか？ひとつはお考えになってもいいのではないのでしょうか」

木村は生命保険をおすすめしたくてお話をさせていただいた。

「実は、生命表によると、20歳で就職の方が60歳の定年を迎えられるときまでに『もしも』のことがある方は、男性では10人に1人ということが分かります。ご同期で入社した方の中から10分の1は、在職中に死亡するかもしれないという確率が生命表から分かります」

参考 平成16年簡易生命表（男性）

年齢	生存数	平均余命
0	100,000	78.64
20	99,284	59.15
30	98,674	49.49
40	97,702	39.93
50	95,531	30.70
60	90,239	22.17
70	79,041	14.51

差 9,045人

佐々木は驚いた表情で聞いていた。

「なるほどね、10人に1人か。同期で入社は全部で80人だったから8人、怖くなりますね。でもまだ家族もいないし、保障なんていらないよね」

佐々木は、保険の話になることを警戒した面持ちで話した。

「そうですね。まだ独身で大きな保障は必要ないかもしれませんが。でも佐々木様、大学卒業までの費用はどの程度かかったかご存知ですか？佐々木さんは、以前いただいたアンケートでは幼稚園は私立、小学校・中学校は公立、高校は地元の私立で、大学からは東京の理系私立大学に進学ということでしたよね。この学費を平均値で計算してみると、なんとそれだけで約1,700万円の学費がかかっていることになります（セールス手帖社保険FPS研究所試算）。学校関係の費用だけでなく学外の塾など、平素の生活費を考えると子供が成人するまでに最低でも3,000万円程度はかかるといわれています。失礼ですが、もし佐々木さんが生まれて